

抄読会

五時十五分から抄読会、つまり各科持ち回りの勉強会。たてまえは全員集合だけれど数名の欠席はいつもある。内科、外科などはともかく眼科、耳鼻科それに歯科などの特殊な専門家までひとからげにして共通の興味を集め得るテーマがそういつもあるわけではない。いきおい話も総論に傾いて細かな検討には到らず、具体的に勉強になったと感ずることはあまりない。話し方が上手であればの話だけれど、拝聴してその時は結構面白いと思つても時にはある。しかしそれが自分の仕事と直接関連が無ければ、すぐに忘れてしまつて生きた知識にはならないで終わる。誰をも満足させず、誰をも啓蒙することのない勉強会はそれでも月イチの頻度で続いていて、継続することがすなわち目的みたいなところがある会である。

ちつとも期待しないから聴く方は気楽なものだけれど、報告する方はそれなりに準備が要る。それが勉強になるわけだ。聴衆ではなくて喋る方の勉強会と思えばそれでいいのかもしれない。若手の落語家の演席を勉強会と称するようなものか。実際、専門外の話題とはいつてもまるで無縁のことではないから、喋っている者の実力は聴いている側にはたちどころに解つてしまふ。

大抵の場合、感心しない。自分の若い頃のことを棚に上げて言わせて貰つと、近頃頼りない医者が増えた。しかし、まあそれも当然で見渡せば後輩ばかり、一番若いヤツなどは息子とあまり変わらない年齢である。自分が駆け出しで、まわりがみんな偉く見えた頃とは事情が違うのだから、こちらも対応に注意しなければ周囲に居心地の悪い思いをさせることになるとは感ずるが、まだ押し上げられた自分の位置に馴染めない。つまりワかつてないところが多分にある。

それにしても今日の話はひどすぎた。

内科の甘木君の降圧剤の話。どこからか、多分製薬会社の宣伝員から借りてきたスライドはとても綺麗だったけれど説明が全くの独り合点で、おまけにやたら英語、それもカシラ文字だけの略語を連発するものだから何を言っているのかさっぱり判らない。こっちは知っていることは判るが知らないことはやっぱり解らない。

こういつた場で仲間うちにしかな通用しない暗号じみた用語を使うというのがよろしくない。しかも、まずもって自分が何を云いたいのかが理解出来てない。聴いている誰もが要領を得ないままツルツルと話が滑って行くのが堪らなくなつて、話の腰を折るようで申し

訳ないけれどもおそれるオソル質問してみた。

膜安定作用の強弱で薬を分類しているらしいけれど、一体膜安定作用とは何のこと…。尋ねてからしまったと思う。あまりに長い沈黙にこちらが当惑してしまって、またのちほど調べて教えて下さい、どうも勉強でどうも申し訳ないなどと口籠りながら、固まってしまった事態の收拾を図る仕儀となる。

一体質問は、多くの場合、問者が知識をひけらかし、その優位を誇示して演者を当惑させる為であって、回答が不満であれば得たりとばかり質問者が論を張らなくちゃいけないものらしい。それをあろうことが本当に知らないことを尋ねてしまった。たとえミニミニであつても「学会」のしきたりを破ってしまった。恐縮の至り。

どうせ他人の論文を抜書きしてきて紹介しているのではあるが、それにしてもコトの意義も意味も調べもしないで単に読み上げるだけでこと足れりとする太い神経には降参するしかない。度胸があるね工。

しかし、実際はそうではなくて、トシを食っているだけで本当に何も知らないらしいヨソノ科の医者に、自分たちには常識になっていることを、仲間うちの用語を使わないで改めて説明するのが難しかったのだらうとは思ふ。長い沈黙の真意はそんなところか。

しかし、医者が状況の説明を求められるのは知識を持たない素人に対してである。患者と向き合った時に相手の知識のレベルに合わせて説明が出来なくてはそれこそお話にならない。

散会后一団となつて先に階段を降りて行く連中の話し声が筒抜けに聞こえてくる。あんな質問が出るなんて思いもしなかったよなあ。そうだよ。ワカってないね工。